



東日本大震災復興支援
つながろう
CO-OP アクション

くらしに寄り添う支援を続けます



支援活動ニュース No.28

(2017年3月27日発行)

コープさが生協総務部組織企画グループ

住民の避難が長引く福島県富岡町の「夜の森の桜」を新栄店に植樹 3月16日植樹交流会 ～富岡町の北崎さんとコープふくしまの理事をお招きして～

6年前の東京電力第一原発の放射能事故で避難が続く富岡町の桜の名所「夜の森の桜」の植樹を通じて、原発事故を風化させず、富岡町の復興を応援していきます。植樹を祈念して「花は咲く」を合唱しました。



富岡町の北崎さんと新栄自治会の栗松さん



コープふくしま穴戸常務とコープさが生協桑原会長



コープふくしま斎藤理事とコープさが生協松本理事



植樹交流会には地元新栄自治会の代表も参加されました。開花を心待ちにして、富岡町との交流が続きますように。



当日は約40名が集まり、NHKのニュースでも伝えられました

植樹のあと新栄公民館に集まって交流会を開きました。

富岡町の北崎さんの「震災発生から避難生活までについて」お話を聞きました。「原発事故の放射能に向き合ったコープふくしまの取り組み」をコープふくしま常務の穴戸さんと組合員理事の斎藤さんから報告いただきました。

富岡町は事故を起こした福島第一原発のある大熊町の隣の町です。事故から6年目の今年4月より一部避難が解除されました。

しかし除染によって放射線量が下がっただけで生活基盤は全く整っていません。住民が安心して住めるようになるまでまだ長い年月が必要です。

地震津波に放射能汚染が重なった富岡町はじめ福島の方の体験を他人事とせず、原発立地県として何を教訓とすべきかを考え、そして一部の風評被害と闘っている福島のことを忘れず、支援の心を持ち続けたいと思います。

新栄店に植えられた「夜の森の桜」をきっかけに、これからも支援と交流の場が続いていくことを願います。



新栄自治会の栗松さんが斎藤連合会長の歓迎挨拶を代読されました。



富岡町の北崎さんは地震、津波、原発事故と続いた避難の壮絶な様子を話されました。



原発事故による放射能と向き合ったコープふくしまの取り組みについて話された、斎藤理事(左)と穴戸常務(右)。



北崎さんの仮設住宅へ組合員からの応援メッセージを贈呈。

被災地支援 感謝の植樹

コープさが 福島から桜2本

佐賀市

樹齢100年1500本の桜並木で知られる福島県富岡町の「夜の森の桜」の植樹会が16日、佐賀市のコープ新栄店であった。植樹会は同町が支援活動への感謝を伝えるために全国各地で取り組んでいる。コープさがはコープふくしまと交流を続けていたことをきっかけに桜の木2本の贈呈を受けた。

植樹会にはコープさかの桑原廣子会長や富岡町緑ヶ丘応急仮設住宅の北崎一六自治会長、新栄地区自治会メンバーらが出席した。9月に福島県を訪れた桑原会



桜を植樹する富岡町緑ヶ丘応急仮設住宅の北崎一六自治会長(左)ら=佐賀市新栄西のコープ新栄店

長は、富岡町の桜並木を見て「桜の時期であれば見事だったはず。桜を見て、福島の震災を忘れないようにしたい」とあいさつ。北崎自治会長は「何もない町と想っていたが、町を離れて桜の大きさが分かった。桜た。」(上田麻美)

のおかげで町民が丸と違って復興に向けて頑張っている」と話した。

北崎自治会長によると

被災地の桜苗木を植樹



コープさが新栄店の駐車場脇に植樹された福島県富岡町のソメイヨシノの苗木

福島県富岡町からコープさがへ

「原発事故忘れないで」

本 日 東
災 震 大
6年

東日本大震災の福島第1原発事故で全町避難が続く福島県富岡町。その桜の苗木2本が佐賀市新栄西2丁目のコープさが新栄店の駐車場脇に植樹された。富岡町が「事故の記憶を風化させまい」と昨年からの全国展開しているプロジェクトで、生活協同組合コープさがが協力。関係者は震災被災地の復興を願い、花開く日を心待ちにする。

富岡町は町内の夜の森地区に1500本のソメイヨシノの並木があり、地元で桜の名所として知られる。しかし、原発事故で町内は「帰還困難区域」「居住制限区域」(4月1日解除)「避難指示解除準備区域」(同)になり、震災前に暮らしていた約1万6千人が町外での生活を余儀なくされている。

今年16日であった植樹式には富岡町民やコープの関係者、地元住民ら約40人が出席。代表者が苗木の根本に土をかけ、みんなで復興支援ソング「花は咲く」を合唱した。福島県郡山市の「富岡町緑ヶ丘応急仮設住宅」で5年半暮らす北崎一六自治会長(69)が「桜が、離れて暮らす町民を一つにしてくれる。これからも頑張るので、桜を見たら富岡のことをちょっと考えてほしい」とあいさつした。

新栄校区まちづくり協議会の実松綱雄会長(69)は「地域が被災地に心を寄せるきっかけになる。大切に、桜の存在を多くの人に知らせたい」と話した。

植えた桜はコープの組合員らが育て、早ければ3年後には花を付けてそうだという。(大坪拓也)